☆帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉砕し、世界革命戦争―世界プロ独を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に建設せよ！

1974年 3月20日 第297号 編集発行人 高木一夫 一部 50円 購読料（半年）20回分1500円 30回分2000円

烽火 NOROSHI

共産主義者同盟（全国委員会）
大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄中通3―33 TEL(06)371―3706
東京戦旗社 東京都本所郵便局私書箱44号 TEL(03)633―0339

春闘―日「韓」―沖縄―狭山―刑法貫き

四月闘争の大爆発で春季大攻勢へ

改良政府かプロレタリア独裁か 大道汚す武装反革命を粉砕せよ

革命かそれとも反革命か 国際主義かそれとも排外主義か

全世界は革命的激動の渦にある。反動の嵐と革命の嵐が、時にゆるく、時に激しく渦巻きながら、変動の針は「革命の嵐」を指し続けている。

日本においても、七〇年代の決定的攻防環―「激動の七四年」は増々、そして文字通り激動の渦中に突入した。階級深部が揺れ、平時の時代を支配した様々のイデオロギーと集団が、ブルジョアジーと労働者階級を問わず、急速な没落を開始し、かわって、激震の時代―内戦の時代に即応し…

激動する今春季大攻勢を切り拓く…

3・22 狭山闘争九千余の圧倒的大高揚

三月二十二日、午後一時より東京日比谷小公園において第六回狭山再開公判闘争が闘い抜かれた。春闘の盛りあがりの中で五千余の解放同盟を中心に、九千名の支援の労働者、学生が結集し、小公園に入りきれず、春季大攻勢の勝利へむけた労働者人民の熱気があふれていた。この日の公判において寺尾は差別裁判への荷担を暴露し、早期死刑判決への反革命的決意を明らかにした。又それに呼応するかのように警察権力の弾圧は一層厳しくなり、ゼッケンや、ハチマキにまで規制を広げ、まさに本能的恐怖とも相まって日比谷を戒厳令下においた。

九千余の高裁を揺がすデモンストレーション、シュプレヒコール、解放歌、労働歌、そして固い団結を武器に、東京高裁、寺尾裁判長、警察権力を徹底的に糾弾し、石川氏と同じく連帯して最後まで戦い抜いた。

【詳細次号】

革命的政治闘争の強化で官僚的警察的独裁と総対決せよ

国民春闘の排外主義と闘い抜きゼネスト軸に今春闘の爆発を

被抑圧、被差別人民の闘いに呼応し巨大な革命の陣型を

…会主義的、排外主義的政治の枠内に落とし込め、総体として日帝ブルジョアジーの侵略反革命政策へ…地位の保全の為に三共闘（公労協、交運、公務員）を軸とした数十時間のゼネストを口先ではさけ…ならねりとして革命的に発展し、日帝の差別政策を許そうとしないばかりか、排外主義、差別意識の…政治闘争と結合させ、強固な革命闘争の一翼に押しあげなければならない。更にこれらの全人民的政…々しく闘い抜き、党―軍中軸にした巨大な革命の…出せよ。

四・一九日「韓」大闘争に総決起せよ

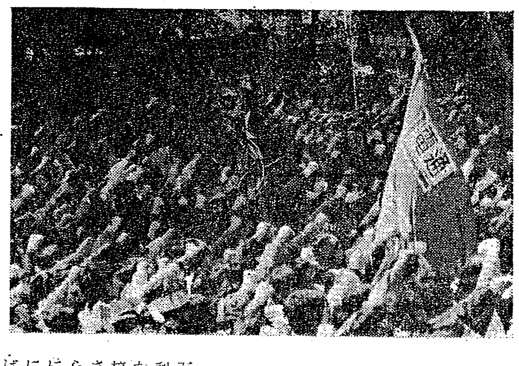
■東京 六時 宮下公園 ■関西 六時 吹田市民館

3・22公判突破口に今春狭山闘争の大昂揚を

共同闘争の推進で完全勝利を

革マルの反革命的介入排し

狭山差別裁判糾弾闘争



（[illegible]第五回公判に結集した労働者・学生）

七四春闘の真只中で迎えた三月公判闘争は、完全勝利にむけた一大決起の闘いである。寒風の中で闘いぬいた二月公判において悪質な部落差別攻撃をおこない、反動的な指揮棒を振りおろした日帝―寺尾体制は、日比谷の森を埋めつくした延べ二万の一斉の糾弾によって追撃された。だが、なにひとつとして弁護側の更新弁論に反撃できなかった寺尾体制は、石川氏＝「犯人」説を改めないばかりか、一刻も早く彼を死刑台に送り込む謀略をいっそう大胆にうち固めたのである。このことは、危機にたつ日帝―寺尾体制の並々ならぬ決意のほどを示している。もはや残された道は力と力の対決だけである。

寺尾の「最良」の将校＝大槻によるあのでたらめな差別論告や日比谷の森全域に戒厳令を発した日帝―寺尾体制の攻撃は、糾弾闘争そのものへの直接的な圧殺である。それゆえわれわれは、いかなる弾圧をもはねのけ、11・27再開公判以降かちとってきた六千部落大衆と労働者人民の共同闘争を更に発展させ強化していかなければならない。

裁判闘争―解放闘争史上かつてない大高揚をみた狭山闘争の画期的な地平を受けつぎ、共同闘争を職場・職場・学園へといっそう拡大強化して、狭山闘争の完全勝利をかちとっていこうではないか。そして、この密集した権力の部落大衆圧殺攻撃と一体となってかけてきた日共・革マルの反革命的な敵対と介入を断じて許さず、一切の差別キャンペーンを粉砕し、あらゆる融和主義と徹底した対決をおしすすめなければならない。

七四国民春闘路線＝社会排外主義に抗し、真に労働者人民自らの課題と解放をかけて三月狭山（再開第六回）公判闘争を闘いぬけ。3・22日比谷小公園に総結集し、再度日帝―寺尾体制の胸もとに糾弾の矢を撃て。段階的勝利から完全勝利を期すために、先進的な労働者人民は七四春闘の最前線で糾弾の炎を一斉に燃やせ！

2・7、14公判において延べ二万を動員した狭山闘争は、完全勝利の核心にむかって巨大な前進をかちとった。寺尾の「最良」の将校＝大槻検事は、これまでねつ造された石川＝「犯人」説をひたすら「死守」し、弁護側の更新弁論に真向からいどんできた。だが既に明らかなように、彼らがもがけばもがくほどボロが続出し、かえってそれをおおい隠すことに懸命とならざるをえなかったのである。2・7公判において検察側が提出した十点の証拠申請を唯一たよれる武器とした彼らの攻撃は、石川氏の無実を実証する「六つの鑑定書」―更新弁論に有効な反撃を与えることができなかった。それればかりか、石川氏の「自白」を任意性があるとして強弁せざるをえないまでに追い込められたのである。大槻は、自白と証拠についても、「部分的には一致していなくても、基本的には一致している」と居直る始末であった。

更に彼らの悪あがきは、露骨な差別陳述と暴挙となって現われた。「蛇ににらまれた蛙と同じ状態」であるとして部落青年石川一雄氏を蛇にしたてた「部落民なら何をするかわからない」なる差別陳述、家族のものが脅迫状に使用されたとした大学ノート・封筒等を隠滅したとして「共謀」説をデッチあげたことはこのことを端的に示している。われわれは、危機にあえぐ寺尾体制のこのような暴挙と露骨な差別攻撃を許さず、敢然とたちむかい、徹底して糾弾していかなければならない。

このように、二月公判闘争は、検察側がでたらめな論告をせざるをえず、何一つとして確信ある反論と客観的な事実に基づいた証拠を提出することができなかったことを明らかにした。寺尾―大槻の猿芝居は、延べ二万の闘いによって幕が降ろされたのである。そして弁護側は、ビニールふろしき、足跡、玉石に関する三つの鑑定をはじめ別件逮捕の違法性を示す証人等を証拠として申請した。3・22公判は、これらの証拠申請の決定が行なわれ、いよいよ狭山闘争は、その完全勝利にむかった決定的な段階に突入したのである。

11・27再開公判をはじめ12・6―8、二月公判と連続して闘いぬいた狭山闘争は、次のことを明らかにした。

㈠ 検事・判事を一名づつ増員強化し、第四刑事部の総力をあげた体制をうち固めたことに端的にみられるように、これまでと違っていっそう強固な差別分断攻撃がかけられたことである。なによりも11・27における六名の労働者の不当逮捕、校門以外を完全に封鎖し、白昼公然とテロ・暴行を加えるなどは、糾弾闘争への直接的な圧殺破壊攻撃のなにものでもない。文字通り日比谷の森に戒厳令を発した彼らこそ、心底糾弾闘争の大高揚に恐怖した現われであり、その反革命的攻撃である。

㈡ と同時に、この権力の露骨極まりない部落差別攻撃―差別分断攻撃に屈服し、その手先となって排外主義をまき散らし、解放運動に分裂と対立をもち込んだ日共の攻撃がこれまでにも増して一段と強化されたことである。とりわけ、窓口一本化に対して民主的公正な行政を叫び通し、差別キャンペーンを張りめぐらした彼らの魂胆は、明らかに融和主義の流布であり、選挙の票かせぎを目的にした政治的利用主義である。われわれは、社会排外主義に転落した彼らの悪行を許さず、羽曳野党員市長津田の差別行政を糾弾しなければならない。また日共は、東京で正常化連をデッチあげ（2・25）、解放同盟都連に敵対してきた。そこにあるのは、彼らの一貫した反動的な方針であり、反革命党の熟練したなせる業である。この野望と謀略は、解同都連を中心とした支援団体の一体となった闘いの前に崩れ去ったとはいえ、今後、ますます分裂策動と敵対を強化してくる以上、これと徹底して対決していかなければならない。

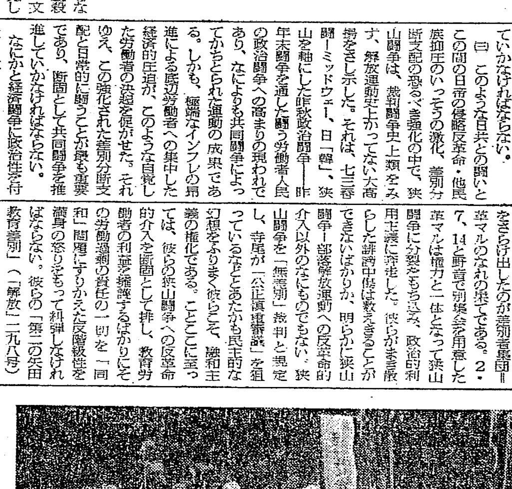
㈢ このような日帝の侵略反革命・他民族抑圧のいっそうの激化、差別分断支配の恐るべき強化の中で、狭山闘争は、解放運動史上かつてない大高揚をさし示した。それは、七三春闘―ミッドウェー、日「韓」、狭山を軸にした昨秋政治闘争―年末闘争を通した闘う労働者人民の政治闘争への高まりの現われであり、なによりも共同闘争によってかちとられた運動の成果である。しかも、極端なインフレの昂進による底辺労働者への集中した経済的圧迫が、このような自覚した労働者の決起を促がせた。それゆえ、この強化された差別分断支配と日常的に闘うことが最も重要であり、断固として共同闘争を推進していかなければならない。

なにかと経済闘争に政治性を付与する改良主義者や「下層」の要求をとり入れることによって、本工組合の利益を優先させ、制度要求にすりかえる腐敗した徒輩を排し、労働者階級自らの課題として解放の旗を高く掲げなければならない。われわれは、狭山―同対審を一体のものとして把え、断固として地域（職場・学園）で共同闘争を担いぬき、その発展を期さねばならない。

㈣ このような闘争の高揚に著しく乗り遅れて反革命のジェウ態をさらけ出したのが差別者集団＝革マルのなれの果てである。2・7、14と野音で別集会を用意した革マルは権力と一体となって狭山闘争に分裂をもち込み、政治的利用主義に奔走した。彼らがまき散らした誹謗中傷は数えきることができないばかりか、明らかに狭山闘争―部落解放運動への反革命的介入以外のなにものでもない。狭山闘争を「無差別」裁判と規定し、寺尾が「公正慎重審議」を狙っているなどとあたかも民主的な幻想をふりまく彼らこそ、融和主義の権化である。ここに至っては、彼らの狭山闘争への反革命的介入を断固として排し、教育労働者の利益を擁護するばかりにその労働過剰の責任の一切を「同和」問題にすりかえた反階級性を満身の怒りをもって糾弾しなければならない。彼らの「第二の矢田教育差別」（「解放」二九八号）と徹底して対決し、今春闘の激動の中で階級的労働運動をいっそう大胆に推しはかっていかなければならない。

再開公判闘争は、このように「革命か反革命か」の分岐を鮮明にさし示した。もはや残された道は、完全勝利にむかって突進するだけである。これまで五回にわたって勝利的に闘ってきた公判は、三月公判の証拠採用決定においてその決着をみる。[illegible]下に寺尾体制の化けの皮が剥がれるのであり、闘いは新たな段階に突入するのである。われわれは、この決定的な段階を迎えた狭山公判闘争にぜがひでも勝利しなければならない。林立した荊冠旗と共に闘う労働者人民の総力をあげて三月公判闘争を闘い、七四春闘の最前線で糾弾の炎を一斉に燃やそうではないか。国民春闘路線＝社会排外主義と闘い、真に革命的な労働者人民の魂で寺尾体制を追撃しようではないか。

3・22、5・9、10日比谷小公園に総決起し、再度東京高裁を包囲せよ！寺尾体制による「早期結審―死刑判決」策動を糾弾の嵐で粉砕せよ！寺尾に現地調査を行なわせ、無実の部落青年石川氏の保釈をかちとろう！日共・革マルの敵対と分裂を排し、一切の差別キャンペーンを粉砕せよ！共同闘争を大胆におし進め、狭山闘争の完全勝利をかちとろう！



法制審総会に連続痛打

2・28―3・12 春季大攻勢で三月答申阻止を

2・28法制審答申粉砕―刑法全面「改正」阻止決起集会、そして3・12法制審答申粉砕―法制審総会粉砕闘争が戦闘的労働者人民を結集して闘い抜かれた。

2・28集会は、昨年四月以来開始された法制審総会での審理―採択は、最終局面を迎え緊迫した情勢になっており、集会は終始戦闘的に闘い抜かれたのである。

実行委諸団体、京浜保共闘・保安闘、医学連、R・G裁判支援委の諸同志の発言を受けた後、日本共産党革命左派の川島陽子氏にかけられている、東京拘置所―名古屋拘置所のたらい回しに示される、実質的保安処分攻撃と闘っている日共革命左派、川島陽子氏、七二年5・15決起以来、一年九ケ月に及ぶ長期不当拘留とデアイメー地検―地裁大前裁判長―暴力廷吏警察機動隊の敵連合戦線との不屈の闘いを展開している早川さん、浅田さんより、悪徳アヤメ病院解体―大石アヤメ糾弾と、刑法全面「改正」を許さないとの決意表明があった。

そして、沖縄の医療問題を考える会から、唯一法制審粉砕―刑法全面「改正」阻止の戦線を拡大・強化し、3・30刑法「改正」―保安処分新設―優生保護法改悪と闘う市民集会の大衆的組織化にむけ前進していこうとの、熱烈なアピールが紹介されたのである。

このように大衆的拡がりと組織的前進に裏打ちされた本集会は、連続する法制審総会粉砕へ向けた強固な隊列を整えたのである。

2・28集会の圧倒的成功を踏えて戦われた3・12法制審答申粉砕―総会粉砕闘争は、保全共の呼びかけの下に、闘い抜かれた。地下鉄霞ケ関前で、春闘集会の結集せんとする労働者をはじめ、多くの人民に圧倒的な情宣活動を展開し、法務省―法制審総会会場に向け「刑法粉砕、闘争勝利」のシュプレヒコールも高らかに進撃した。会場・最高裁を右手に、警視庁を向いに臨む法務省には、既に警備員や多数の機動隊が待機している。我々の隊列が会場前に到着し、圧倒的な糾弾の闘いを始めるや否や、不当にも機動隊は、我が隊列に襲いかかり、多数で包囲し、全人民にこの法制審総会での審議強行審理が暴露され、刑法全面「改正」の反革命性が明らかになることを恐れ、封殺せんとしたのである。

法務省から地裁前を、権力共の規制をハネのけデモを貫徹し、小公園入口において、機動隊との対時をかちとり小公園での総括集会で、四月結審、五月法制審答申粉砕に向け、徹底して闘い抜く決意を固めた。

我々は、刑法全面「改正」を新犯罪類型の拡大と刑罰のひき上げにのみその本質を見い出し、自由刑の拡大をことするにとどまり、全面「改正」の政治的意図、隔離・収容・抹殺攻撃を相対化し、民主主義的諸権利の擁護や逆に、治安弾圧一般に流し込む傾向と闘い、また日帝の差別分断支配とは相対的別個に精神衛生法体制（実質的保安処分体制）解体の闘争を把え、病院解体闘争―「精神「障害者」解放闘争の政治闘争としての発展をおしとどめる傾向を早急に克服し、文字通り刑法全面「改正」―保安処分新設粉砕を闘いとる、広大な単一の戦線の構築に向け、あらゆる労働者・人民・「患者」家族を組織していかなければならない。

五月法制審答申―来年国会上程に向けた、日帝・田中政府のこの大攻撃を、七四春闘の革命的大爆発をもって開始された、今春労働者人民の決起と、我が同盟を先頭とする革命党―革命勢力の前進で打ち砕き、日帝打倒に向けた「祖織破防法」と闘いうる、体系的非合法党の建設で応えなくてはならない。七四春闘の渦中に、刑法全面「改正」―保安処分新設粉砕の一大戦列を、築き上げよう。

片平連続闘争闘わる

闘いの陣型一層強固に

三・二〇 府教委糾弾 府警が暴力弾圧

三月二〇日、「障害者」解放・片平闘争勝利に向けた対府教委抗議行動は、片平闘争を支援する会に結集する「障害者」・労働者・学生等百余名を結集して闘いぬかれた。一時より剣先公園にて強固な意思一致を行った後、三時より片平さんを先頭に府庁・府教委に向けデモに出発した。「府教委・校長の「障害者」差別糾弾！」「府の差別行政を許さないぞ！」「片平さんへの不当な首切りを撤回せよ！」「片平闘争勝利！」「勝利するまで闘うぞ！」の力強いシュプレヒコールで。

この抗議行動の位置は、片平さんを首切った当人が府・府教委そして校長であること、解雇は不当であり「障害者」差別に満ち満ちていることをふまえた上で、まず第一に、府・府教委の「障害者」に対する差別行政を糾弾し、千余名の署名をもって要求書を府教委へ突きつけることである。

二・二二 校長団交へ 2・20 前段決起集会

11・19 公判闘争 第十五回 裁判闘争の圧殺を粉砕

起訴状の不当性暴露 第11回 三里塚東峰公判

三里塚強制第二次代執行阻止闘争、九・一六東峰十字路第十一回公判闘争が三月十一日千葉地裁で行なわれた。統一公判獲得以降、更に非妥協的な闘いを展開している青行隊を中心とする東峰被告団は、まず最初に過去十回の公判廷における強権的訴訟指揮を暴露した。

数度にわたって、①空港建設用地②公団存立の法的根拠、③強制代執行の法的根拠及び実力行使、を主要に行なわれた求釈明（総論）闘争を「釈明の要なし、立証段階で事は済む」と逃げのびた新谷―遠藤体制は、今回より各論部分に移った求釈明闘争に入って更に起訴状のデタラメさ、具体性の無さを追求された。

全被告の「罪状」となっている「凶器」を、たった一つの書類でもって審理の事務処理化を押し切らんとした遠藤は、被告―弁護士の徹底追求の前で逃げ場を失った新谷より"釈明勧告"を受けざるをえなくなったのだ。我々は東峰被告団と連帯し、遠藤に釈明させる事によって起訴状の不当性を全人民的に暴露せしめ、三里塚九月決戦公判闘争を、より一層の侵略反革命―他民族抑圧により体制的危機の中で延命せんとする日帝―公団の鉄塔撤去、開港策動を打ち砕く戦闘を強化、拡大する決意である。

第二回影山裕子糾弾集会 2・20 影山の居直りを許さず

二月二十日、市立労働会館に結集する部落対策婦人共闘に、全電通、市職、大教組、めとする婦人労働者を中心に名の参加の下、影山裕子（元公社高円寺局長）、電々公社通信局に対する第二回（第一三年五月）糾弾集会が開かれ、影山裕子著「女性の能力開か、婦人労働者の位置を、「

片平闘争の現段階と我々の任務（中）

府教委、学校の差別粉砕し 片平闘争の勝利へ

狭山差別裁判糾弾闘争勝利へ向けて

一、狭山差別裁判再開公判闘争にむけて
二、70年代階級闘争の現段階と部落解放運動

資料　領価四〇〇円

発行　共産主義者同盟（全国委）

―スケジュール―

4・12 〃川原発阻止公判闘争（午前十時仙台地裁）

4・17 電々会館公判闘争（午後一時半仙台地裁）

4・19 法制審粉砕中央闘争（午後一時 日比谷小公園 主催 保全共）

4・19 朝鮮学生革命十四周年記念・全国総決起闘争（東京 六時 宮下公園 主催8・25共闘 関西 六時 吹田市民会館）

南朝鮮・反日（帝）闘争に応え 日帝の侵略反革命と総対決せよ

十二月二六日「韓」閣僚会議の強行に対し、朝鮮人民から「軍靴の代わりにゲタの音が高まっている」（梨花女子大決議文）と喝破され、そればかりか在「韓国」日本大使館突入をはじめとする朝鮮人民の断固たる決起で応えられ、そして、一月七日からの東南アジア諸「国」歴訪に対し反日デモ―暴動の「大歓迎」を受けた日本帝国主義・田中首相は、帰国後の一月二十四日衆院において「日韓併合」を肯定して平然としてこういい放った。―「長い合邦の歴史は朝鮮半島にノリの栽培と義務教育制度を植えつけた。それは今日でも守っていけるすばらしいものだ」

われわれは、このような支配者を頭におしいただいたままで、いま三・一蜂起＝朝鮮独立万歳革命五五周年を迎え、また四・一九南朝鮮学生革命十四周年を迎えようとしている。この発言は三・一蜂起、四・一九蜂起を継承し、かつそれを教訓化しつつ反朴・反日（帝）救国闘争―南北統一・民族解放闘争を闘うすべての朝鮮人民への真向うからの挑戦であるばかりか、日本労働者階級・人民を愚弄するものであることを、われわれはしっかりと見てとらねばならない。なぜなら、このようにまであからさまな他民族抑圧の野望を表明しても、なおかつ彼らは、日本労働者階級・人民が断固たる反撃でもって応えられないだろうとタカをくっているに違いないからである。いや、そればかりか、それに沈黙させることによって他民族抑圧の共犯者の位置を強要する愚弄＝挑発を行っているからである。この愚弄＝挑発に対して、日本労働者階級・人民のとるべき態度は果して黙認や沈黙であろうか。否、否、否―われわれは、三・一闘争を突破口とする今春闘争の大爆発によって、この愚弄＝挑発に真向うから応えてやろうではないか。

南朝鮮革命闘争の現局面と日本労働者階級・人民の試練

4・19日「韓」闘争の勝利へ向けて

1 南朝鮮「三、四月危機」と反朴反日（帝）闘争の決着的局面

南朝鮮「三、四月危機」と反朴反日（帝）救国闘争の決着的局面

第七回日「韓」閣僚会議のもたらしたもの

2 国際階級闘争の高揚と反朴反日（帝）救国闘争の到達点

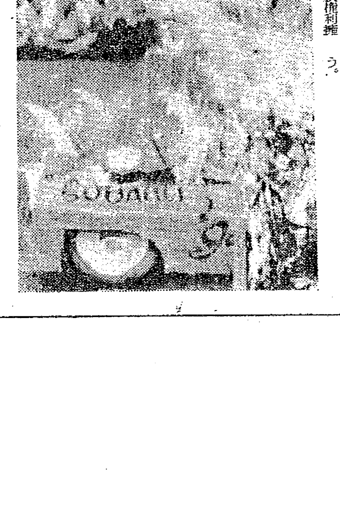
反朴反日（帝）救国闘争の到達点

国際階級闘争の高揚と南朝鮮危機

3 日本労働者階級・人民―党と革命勢力の直面する課題

在日朝鮮人の民主民族運動の発展とそれへの連帯、結合のために

直面する課題の第三は、在日朝鮮人への「同化」・抑圧・分断・追放と対決し、入管体制粉砕、在日朝鮮人の生活権と民主主義・民族権利擁護……



三・一入管闘争東西で 南朝鮮情勢の高揚に呼応し

【関西】

【関東】

国民春闘の排外主義路線との対決へ

「春闘勝利・労働者決起集会」貫く
3・14 大阪農林会館に三百名

我が共産主義者同盟（全国委）主催による3／14春闘勝利／全関西労働者決起集会は、三月一四日、午後六時、大阪農林会館に三百名の先進的労働者を結集してかち取られた。本集会に先立ち3／1公労協統一ストライキの真っただなかにおいて、その一翼を担って闘い抜いた電通の先進的労働者、更に、連日の我が同盟による工場街・地区への早朝ビラまきに呼応した全関西の先進的労働者の結集によって、あふれる熱気の中で集会が貫徹され、今春闘を「国民春闘路線の排外主義」と対決し抜く戦う労働運動の戦列を更に深く打ち固めた。

八木沢同志が基調報告

片平氏、広氏らアピール

電々会館、本山先頭に 東北でも春闘集会

電通民同を追撃
2・22 春闘集会に百

吸血鬼アヤメ徹底糾弾 2・19
暴かれた実体＝強制収容所
三「被告」即時釈放かちとれ

水口病院をBさんが告訴
第一回公判に結集せよ
2・23「討論会」に一五〇

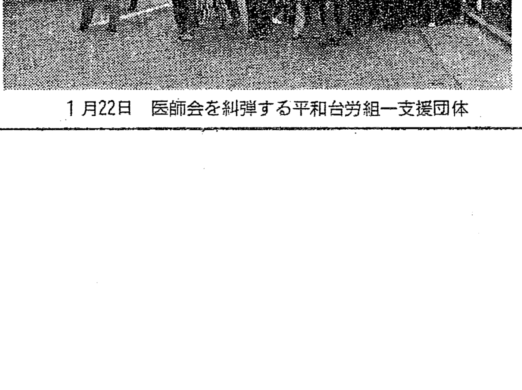
今こそ資本・同盟追撃の攻勢的布陣を
―2・26太田垣君反レパ勝利集会―
3・1 本訴 労務課長岩井を追及

26集会で報告する太田垣氏

東京―静岡へ追撃戦
3・3―5 平和台病院闘争

７４春闘の激動の渦中で
平和台闘争の中間総括と課題
神戸労働者政治委員会

「国民春闘」の排外主義的本質と対決し
中小未組織労働者の闘いの飛躍を


1月22日　医師会を糾弾する平和台労組一支援団体